

## 令和4年度 第2回地域福祉推進会議 会議録

【日 時】令和4年9月5日（月）午前10時～11時35分

【会 場】豊田福祉センター3階 大会議室

【出席者】13名

【事務局】14名

【傍聴者】なし

### 1 あいさつ

### 2 議事

#### (1) 地区別懇談会の開催状況報告について

配布された資料に基づき、事務局から説明。その後意見交換がされた。発言の概要は以下の通り。

委員 10年後の福田地区での生活をイメージして、どうなったら良いか、その為に今から取り組めることは何か、継続して取り組んで行ったら良いものはあるか等をテーマに福田包括の立場で参加。イメージが出来ない人に対して、運転免許を返納した後の生活はどうか（買い物や外出）等、具体的な内容を提示することで、イメージをもってもらいながら話し合いを行った。

委員 民生委員として代役で中泉地区に参加した。地区全体の動きは把握できた。グループ討論では、サロン活動をしている人と自治会長が別れてしまってファシリテーションが難しかった。自治会長は全体を見ているので細かいところは分からない。今後まとまってくると思うので楽しみにしている。

委員 田原地区に参加した。地区社協のタスクチームやサロン運営者で懇談。担い手、居場所、潜在する困りごとの3つのテーマで話し合った。地域の担い手養成で重要な方法として、中学生にリーダーとしての活動をする場を用意したいという案が出された。ボランティア活動をしている人は思いを発散する場がない。このような場で発散できて良かったとの意見があった。

委員長 懇談会は大切である。参加者の意見は様々な声を代表している。アンケートは抽象化して多数意見を反映する。懇談会は思いを語る場所として重要。マイノリティの地域の声を把握することが大切である。

委員 長野地区に参加した。長野と豊田東は中学生以上全住民アンケートを活かすとのことだが、アンケートの作成は社協か、自治会で作成したか。作り方によっては、住民の考え方を反映しない場合がある。

事務局 各地域の地域づくり協議会が作成した。内容は意見を出し合って地域の方々が決めている。防災・防犯・福祉などの活動に携わっている方が中心になって作成した。

委員 内容は行政が質問したような内容だった。懇談会とアンケートで結果は相違しているか。

- 事務局 長野地区の実行委員会の1人として内容をみんなで考えた。実際やってみて次の地区に伝えたいこともあった。長野は回収率が良く、中学生から高齢者まで97%だった。途中経過を報告しながら活かしていきたい。
- 委員 アンケートは意見がバラバラに出てくる。トータル的に考えて欲しい。懇談会は役員等が多く、一般住民が出ていない。そのような人の考え方も集約できるようにしてもらいたい。
- 委員長 言葉足らずの部分があった。アンケートは定量的なデータとしては有効。どの方法をとるか、地域の選択である。どの方法でもマイノリティの声をどのように反映していくかが重要である。懇談会の進行が円滑にいかなくても、住民の方々が懇談できる機会が重要。社協においては大変でも、懇談会で出てきた意見をまとめて資料として住民に還元してほしい。地域福祉を進める上での拠り所となる貴重な資料になる。

## (2) 第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画策定にかかるアンケート結果について

配布された資料に基づき、アンケート結果について、事務局から説明。その後、意見交換がされた。発言の概要は以下の通り。

- 委員 全体的な感想だが、誰かがやってくれればいいという姿勢の意見が気になった。要望等が多すぎる。もう少しみんなで地域福祉を考えてほしい。
- 委員長 自由意見欄は要望になりがちである。ここからどのように組み立てていくのが大事である。
- 委員 高齢者の社会福祉の中で地域格差が大きい。社会参加が盛んな地域と居場所がない地域がある。高齢者の多くがマイファーストであり、自分からやろうとしない。デイサービスに行ってしまう。みんなでやるべき活動に参加しない人が多い。このような現実にもどのように切り込むか。地域崩壊が始まっている。共助ができなくなっている。地域福祉のことが住民一人一人に浸透していない。
- 委員長 地域格差こそが要のポイント。キーパーソンがいないと地域全体の様子が捉えられない。マイノリティ、要介護の問題も見えにくい。
- 委員 新鮮な気持ちで資料を見た。民生委員という言葉が7カ所あった。やらなければならないこと、気持ちはわかるが実際には難しいこともあった。この結果を民生委員に伝えたい。各種相談事業のPR活動もしていかなければならない。近所の人や民生委員には相談しにくいことも分かる。日頃から民生委員の周知活動に取り組んでいかなければならない。新しい問題が増えているので、足元から見直して反省しないといけないと思った。
- 委員長 国は重層的支援と言っているが、今、発言いただいた内容が重層的で伴走的な支援にもつながる。今回のアンケートは単純集計だけであり、クロス集計が必要である。自由意見がたくさんあり、意識の高い方がアンケートに取り組んでいただいたと思っている。テキストマイニング等で整理してほしい。
- 事務局 年齢や世帯構成などのクロス集計をしたい。また、自由意見についてもテキストマイニング等を使って取りまとめをしたい。

(3) 第4次磐田市地域福祉計画・地域福祉活動計画中間案（体型図案）について

事務局から当日配布をした地域共生社会に関する資料を説明。その後、計画の基本理念・基本目標の案の資料を説明。

委員長 2 ページの地域福祉の主な課題が、アンケート等から見出した3つの課題ということである。皆さんの感想を伺いたい。

委員 行政としてはこのようなまとめでよいと思う。社協は地域の器になりたいということだが、社協支所を廃止し人員を削減した。逆ではないかと思う。人員を増やして、支所を起点として地区社協活動を支援したらどうか。以前に比べて社協へ行きにくくなった。行政は全体を見渡す必要があるが、社協は住民から聞いた意見を行政に上げていく必要がある。事務的ではなく、もう少し話がしやすく、相談しやすい立場になってほしい。住民と対等に話せる環境づくりをしてほしい。

委員長 社協への応援の意見である。今こそ社協の存在意義を高めることが必要だと考える。

委員 いろいろな課題があり、自由意見は丁寧に掘り下げる必要があると感じた。次の担い手について、どのように養成していくのか情報が無い。スマホ等での情報提供が多くなったが、使いこなせない人も多い。地域の困っている人の情報を発信していくことが必要。ICTが得意な人を活かして活性化できるようにしてほしい。地域と関わりがない高齢者の問題など、もう少し取り上げてほしい。

委員長 人材を活かすという意味では、社協の福祉教育にも通じる。

委員 社協はiプラザで活動する人たちにとって相談できる頼れる場所である。人づくりという面で、例えば障がいを持った方だけでなく、全ての人が行動できる取り組みを考えたい。全ての人が区別されずに、一緒に活動することが当たり前になってほしい。

委員 計画書に書かれている内容は、老人クラブの取り組みと同様である。目指すところは共通している。

委員 アンケートで幅広い意見を確認することができた。住民自身は、自分ごととして考えていかなければいけない。コミュニティの人と人を丁寧につないでいくことが大切である。そこに人を活用していきたい。障がい福祉でも相談機関につながる支援が必要である。加えて、ワンストップの相談ができる環境づくりが重要だと感じた。

委員長 従来の計画では、事業の寄せ集めでよかった。今は、事業によって説明するのではなく、事業を通して何を実現するのか。説明責任が問われている。5年後どのような地域にしていくかというロードマップを描くことが必要。第4次計画では、5年後のあるべき望む姿を、住民目線で住民とともにどのように描いていくかが求められている。

委員 子育てサロンの参加者が減っている。出生率の低下も気になるが、担い手となるボランティアの高齢化で参加者が減少することも気になる部分である。人口の増減など基本的なデータを考慮した方がいいと思う。データを把握した上での計画づくりが必要である。

### 3 その他

- ・事務局から今後について説明。示した基本理念・基本目標について、皆様の意見を踏まえ内容を詰めていきたい。
- ・アンケートのクロス集計や自由意見など、全体を通した振り返りをしたい。
- ・次回の日程 12月1日（木）午後1時30分から、同会場で開催。